

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01026

研究課題名(和文) オスマン帝国末期イスタンブル都市社会における近代演劇：帝国と大衆とを結ぶ装置

研究課題名(英文) Modern Theatre in Istanbul Urban Society in the Last Period of the Ottoman Empire: A Device for Connecting the Empire with the Masses.

研究代表者

江川 ひかり (EGAWA, Hikari)

明治大学・文学部・専任教授

研究者番号：70319490

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀後半から20世紀初頭にかけてオスマン帝国の都、国際都市イスタンブルにおける近代演劇は、19世紀後半に政府から上演権を取得したアルメニア人演劇人によって発展した。当初の公演は一演目もしくは主・副演目から構成された。20世紀初頭になると、公演は、演劇のみならずカント(歌)とダンス、影絵芝居、シネマトグラフなど複数の演目から構成される寄席演芸形式の興行となった。グローバル化と運動した消費主義が押し寄せ、演劇ポスターに掲載された舶来品の広告が大衆を消費に誘った。バルカン戦争以降の演劇興行は、大衆に挙国一致、慈善募金をよびかけ、あるいは戦勝の祝祭空間を提供する国家の装置と化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本でオスマン近代演劇に関する現地語史料を用いた研究は皆無であった。この研究分野を開拓した永田雄三と江川ひかりとの共著『世紀末イスタンブルの演劇空間 都市社会史の視点から』(白帝社、2015)を基礎に、トルコ語読者向けに加筆・修正後2021年にトルコ語で研究書を出版したことは、演劇学・都市社会史研究に極めて重要な学術的意義をもたらした。トルコ人による本書の書評では、日本人研究者が、オスマン演劇ポスターを解説し、都市社会史という視点から日本演劇と比較・対照しつつ考察した点が高く評価された。基礎史料として用いた演劇ポスター170点の基本情報をデータベース化し、研究成果として発信している。

研究成果の概要(英文)：From the late 19th to early 20th century, modern theatre in Istanbul, the capital of the Ottoman Empire and a cosmopolitan city, flourished mainly with Armenian theatre artists who acquired the right to perform from the government in the late 19th century. Early theatrical performances included a single act or main and secondary acts, but by the beginning of the 20th century, theatrical performances were presented in the form of vaudeville-style performances consisting of multiple acts such as cantos (singing), dances, shadow plays, and cinematographs, in addition to dramas. Consumerism, linked to globalisation, was sweeping the country, and advertisements for imported goods on theatrical posters lured the masses into consumption. After the Balkan Wars, theatrical performances also became a state device to appeal to the populace for national unity, raise funds for orphans and wounded soldiers, show newsreels, and show off victorious festivities.

研究分野：オスマン帝国史

キーワード：オスマン演劇 祝祭 暦 大衆文化 イスタンブル オスマン帝国 ラマダン(断食月) カント(歌)

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は、1990年代前半、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所に、オスマン演劇ポスター・プログラム（以下、ポスターと略す）170点が将来され、同研究所教授だった永田雄三からポスター資料整理に携わる機会を筆者が得たことに遡る。ポスター資料のこれほどまとまったコレクションは世界でも稀有であったため、筆者はポスター整理を開始し、上演年月日、劇場、劇団、演目、作品構成（何幕何景等）、配役、演出家・翻案者など演劇ポスターの必須項目を「劇団別基本表」として作成した。「劇団別基本表」はポスター画像とともに東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所情報資源研究センター（IRC）のウェブサイトで2017年3月に公開され、以後、現在も随時加筆・更新を続けている（<https://osmanlitiyatro.aa-ken.jp/>）。

その後も永田が研究代表者、筆者が研究協力者として文部科学省科学研究費基盤研究（C）平成16～18年度「一九世紀イスタンブルの演劇空間：都市社会史の視点から」および平成19～20年度「近代トルコにおける西洋演劇の受容と伝統演劇」の下に研究を進めた。それらの成果は、永田雄三「オスマン帝国末期イスタンブルの演劇空間—ポスター資料の分析を中心に—」『駿台史学』（129, 2005, 105-128）および永田雄三・江川ひかり共著『世紀末イスタンブルの演劇空間—都市社会史の視点から』（白帝社2015）で発信された。

同年2015年に首相府オスマン古文書館から同館所蔵演劇関連史料集（*Arşiv Belgelerine göre Osmanlı'da Gösteri Sanatları: Geleneksel Seyir Sanatları(Kukla-Karagöz-Meddah-Ortaoyunu), Tiyatro, Sinema* 『公文書史料にみるオスマン朝舞台芸術：伝統的演芸芸術（人形芝居、影絵芝居、語り物、大道演劇）・演劇・映画』（以下、『演劇関連史料集』と略す）が公刊され、「新規劇場建設許可」や「火災被災者義捐のための演劇上演」などに関する公文書を解読することが可能になった。その結果、これらの古文書に現れた、演劇と政治との関わり、演劇と大衆との関わりを政治文化史・都市社会史の視点から考察することを着想するに至った。

トルコ演劇研究は、主としてトルコ人演劇史家のアンド（Metin AND, *Tanzimat ve İstibdat Döneminde Türk Tiyatrosu 1839-1908*, Ankara, 1972 他）やセヴェンギル（Refik Ahmed SEVENGİL, *Türk Tiyatrosu Tarihi III, Tanzimat Tiyatrosu*, İstanbul, 1968 他）によって演劇学・文化史の分野において基礎研究が蓄積されてきた。2011年には、イスタンブール大学文学部演劇批評・戯曲作法学科教授陣（K.カラボア、Y.ペクマン）を中心に編まれたイスタンブールにおける近代演劇に関する包括的研究（Karaboğa, Kerem; Pekman, Yavuz et. al., *Geleceğe Perde Açan Gelenek: Geçmişten Günümüze İstanbul Tiyatroları, I-III*, İstanbul, 2011）がある。

他方、日本ではヨーロッパ中心史観がいまだに根強く、日本語による『世界演劇史』といった題名の本で論じられるアジア地域の演劇といえば中国、東南アジア、南アジア、イラン、モンゴルなどで、トルコ演劇に関する論考は、山田寅次郎「土耳其の演劇」『太陽』（7号, 1895）（永田「西洋演劇の受容（二）大衆演劇の活況」永田・江川(2015), pp.177-181）を除いて専論は皆無であったといえる。

2. 研究の目的

(1) 上掲共著書では用いることができなかった『演劇関連史料集』には、スルタンによる劇場建設や劇場用地売買の許可、火災被災者への義捐金のための興行許可など演劇と政治との関係や都市社会史に関する情報が含まれているため、これら公文書史料の解読によって、同時の演劇興行を国家がどのように管理・統制していたのかに関するより深い考察が可能となる。その結果、演劇興行に対する国家による管理・統制が、ポスター資料の記載にどのように反映されているのかを解読する。

(2) 演劇ポスターに演劇興行と同時に戦災孤児への義捐金のよびかけやスルタン主権による臣民男子への割礼施術は、奥美穂子による祝祭研究と共通するテーマである。20世紀初頭の演劇興行と国家祝祭にみられる共通性に関しては、奥美穂子「誕生と即位—オスマン帝国における王権祝祭の文化と変容」『アジア

ア史論集』(第23号, 明治大学東洋史談話会, 2019年3月)としてまとめられた。16世紀以来実施されてきた、王家主宰の祝祭における王から臣民への施しや食の振る舞いなど祝祭の伝統が、近代演劇興行にどのように継続し、再生産され、あるいは発展的に変容するのかを観察する。

(3) 近代演劇の上演では、西欧のミュージックホールなどで用いられた「ヴァリエティ」と呼ばれる寄席演芸形式が採用され、芝居の他に「歌(カント)と踊り」、オーケストラ演奏、映画などの番組から構成される興行が上演された。とくに「歌と踊り」を披露する女性カント歌手が一世を風靡した。寄席演芸形式の舞台だけでなく、場末の酒場や食堂でも人気を博したカント歌手の流行は、演劇と大衆の娯楽との相互性を示している。劇場の舞台で流行したものが劇場外の大衆にも浸透していく一方で、大衆文化が劇場の舞台へ吸収される現象を追究したい。加えて、当初は寄席演芸形式の番組の一つにすぎなかった映画という新興の娯楽が、共和国成立以降近代演劇にとって代わることになった。そのため、オスマン近代演劇から現代トルコ映画文化への継続性と変容の詳細を跡付けたい。

以上3点の研究目的を総合して、オスマン近代演劇興行・演劇文化が、国家と大衆を動員する装置として機能したことを明らかにすることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1) 公文書史料とポスター資料との比較・検討

『演劇関連史料集』、すなわち公文書史料の解読によって、同時の演劇興行を国家がどのように管理・統制していたのかに関するより深い考察が可能となる。その結果、演劇興行に対する国家による管理・統制が、ポスター資料の記載にどのように反映されているのかを考察する。

(2) 16世紀のオスマン王家祝祭における行事と近代演劇興行との、日本・世界史における近代祝祭・儀礼との比較・検討

16世紀以来実施されてきた、オスマン王家主宰の祝祭における王から臣民への施しや食の振る舞いなどの伝統的行事が、近代演劇興行にどのように継続し、再生産され、あるいは発展的に変容するのかを検証する。同時にオスマン帝国の近代における祝祭・祝賀行事、儀礼などを同時代の世界史に位置付け考察する。

(3) 近代演劇から現代映画への連続性と変容とを演劇・映画作品から比較・検討

19世紀末にパリではじめて上映されたシネマトグラフがイスタンブルでも上映され、大衆に浸透していった。イスタンブルにおける映画の流行は、近代演劇劇場を映画館に転用する原動力となった。オスマン近代演劇からトルコ共和国成立後の映画文化への変容を跡付けることによって、近代演劇の終焉および現代トルコ映画への継続性を明らかにする。

(4) ウェブサイトに掲載された基礎データを随時更新し、ポスター閲覧者数を明示

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所情報資源研究センター(IRC)のウェブサイトにおける基礎データを随時加筆・更新を継続した(<https://osmanlityatro.aa-ken.jp/>)。ウェブサイトには、各ポスターへの閲覧者のカウンターを設置し、閲覧者数が多いポスターを明示した。

4. 研究成果

本研究成果は、次の3つに大別される。

(1) 2021年に永田雄三・江川ひかり共著でトルコ語研究書 *Bir Kentin Toplumsal Tarihi Açısından Osmanlı'nın Son Döneminde İstanbul'da Tiyatro ve Çevresi*(『都市社会史の視点からみたオスマン朝末期イスタンブルの演劇空間』)(İstanbul: Dergah 出版社)を出版した。出版直後からトルコ人研究者、著述家による書評が寄せられ、高い評価を得た。

(2) 研究成果報告書（冊子体）を作成した。以下が各個別研究論文の概要である。

① 奥美穂子「近代イスタンブルにおける舞踏会と都市社会」

本報告は、19世紀イスタンブルの都市社会で興隆した舞踏会文化に着目し、近代オスマン帝国における外交と遊興の場としての舞踏会の意義を明らかにすることを目的とする。ヨーロッパ各国の在イスタンブル大使館で繰り広げられた舞踏会は、新たに受容すべき「一等国としてのたしなみ」として近代オスマン社会に出現した。それ以前の舞踏会は、主に在留外国人や非ムスリムのなかで楽しまれていた。しかし19世紀、特にクリミア戦争以降に舞踏会が重要な外交儀礼の役割を担うようになると、最高権威者たるスルタンまでが招待を受け、御自ら舞踏会会場に臨席する事例が発生するに至る。舞踏会において「あたりまえ」とされた、人前での男女の社交や舞踏行為そのものもまた、イスラームさらにはオスマン帝国で共有されてきた通念や慣習と大きく異なるものであった。以上の論点にそくして、第一に、オスマン社会での舞踏会文化の受容過程と問題点を整理する。続いて明治期日本をふくめた「19世紀の共時性」の視座のもと、舞踏会とチャリティとの関係について考察を行う。

② 江川ひかり「公文書から読み解く1881年イスタンブルの演劇事情」

アルメニア人ギュッリュ・アゴブ(1840-1902)は、アルメニア人およびムスリム双方の演劇人の橋渡しをしつつ、オスマン劇団を中心にオスマン近代演劇の基礎を築いた人物である。彼は、1870年11月にトルコ語によるドラマ、悲劇および喜劇を、イスタンブルの旧市街、新市街、およびアジア側ユスキュダルで上演する10年間の独占権を取得した。この際、劇場の座席料も決定され、第1等観覧席60、第2等観覧席40、第3等観覧席20、入場料6クルシュと公文書には記されている。他方、1881年夏の断食月に旧市街におけるオスマン劇団公演ポスターに記載された座席料は、第1等観覧席40、第2等観覧席30、入場料5クルシュとある。1881年は、オスマン劇団の主宰者がアゴブからアルメニア人マルディロス・ムナクヤン(1837-1920)へ移る時期だった。両公演には、1870年と1881年という時間差、近代劇場と夏季仮設劇場の座席の違い、劇団主宰者の違いがあったが、ミドハト憲法発布(1876)、ロシアとの戦争(1877~78)を経てもイスタンブル各地区における座席料・入場料には一定額が保持されていたと推察されよう。

③ 永田雄三「アーディレ・ナシトの生涯と芸歴」

本報告は現代トルコのある女流喜劇役者の生涯と芸歴を紹介することを目的としている。トルコ共和国は1923年に成立後、トルコ人のナショナリズムをより拠り所とした国家である。ところが、トルコ共和国の前身であるオスマン帝国は、トルコ人のみならず、ギリシア人、アルメニア人、ユダヤ人などなどからなる複合民族国家であった。本報告の主人公は1930年にイスタンブルに生れたが彼女の父はギリシア人、母はアルメニア人である。しかし彼女は共和国トルコにおいて誰からも好かれる「陽気なおばさん」としての役柄に裏打ちされた国民的アイドルとして、1976年にはトルコ最大の映画祭で「最優秀女優賞」を獲得している。本報告は、そうした役者としての彼女の生涯と芸歴をたどるなかで少数民族としての立場にも注意を払いたい。

<参考文献>

- ① 秋葉淳「オスマン帝国における近代国家の形成と教育・福祉・慈善」広田照幸、橋本伸也、岩下誠(編)『福祉国家と教育：比較教育社会史の新たな展開に向けて』昭和堂、2013、141-157.
- ② 金澤周作『チャリティの帝国：もうひとつのイギリス近現代史』2021、岩波新書.
- ③ 永田雄三『トルコの歴史』上下巻、2023.
- ④ 永田雄三・江川ひかり共著『世紀末イスタンブルの演劇空間—都市社会史の視点から』白帝社、2015.
- ⑤ And, Metin, *Tanzimat ve İstibdat Döneminde Türk Tiyatrosu 1839-1908*, Ankara, 1972.
- ⑥ Biret, İsmail, *Komik-i şehir Naşit Bey ve Çocukları*, İstanbul, 2005.
- ⑦ Emiroğlu, Kudret, "Impact of the War on Daily Life in Istanbul," *The Routledge Handbook of the Crimean War*,

ed. Candan Badem, London and New York, 2022, 350-356.

- ⑧ Karaboğa, Kerem; Pekman, Yavuz et. al., *Geleceğe Perde Açan Gelenek: Geçmişten Günümüze İstanbul Tiyatroları, I-III*, İstanbul, 2011.
- ⑨ Sakaoğlu, Necdet; Akbayar, Nuri, *Binbir Bün Binbir Gece, Osmanlı'dan Günümüze İstanbul'da Eğlence Yaşam*, İstanbul, 1999.
- ⑩ Sevensil, Refik Ahmed, *Türk Tiyatrosu Tarihi III, Tanzimat Tiyatrosu*, İstanbul, 1968.
- ⑪ Yeşil, Fatih, "Diplomatik Merkez Olarak İstanbul," M. A. Aydın(ed.), *Antik Çağ'dan XXI. Yüzyıla Büyük İstanbul Tarihi*, cilt.II/1, İSAM Yayınları, İstanbul, 2015, 400-428.
- ⑫ Yumul, Arus, "İstanbul'un Erken Baloları," *Akademik Tarih ve Araştırmalar Dergisi(ATAD)*, 2021, Cild:4 Sayı:5, 18-52.

以上 3 名の論文は、研究成果報告書（冊子体）に掲載される。

(3) 書籍、論文、学会発表およびウェブサイトにおいて研究成果を発信した。（詳細は、5. 主な発表論文等を参照されたい）

なお、以上の研究成果を基礎に、2024 年度から新たに 3 年間、本研究の継続・発展研究として、「オスマン帝国末・トルコ共和国初頭における大衆化の諸相—演劇・祝祭、遊牧民を中心に」基盤研究（C）（一般）（研究代表者江川ひかり）が採択された。本研究で掘り下げが不十分となった課題については、引き続き考察を重ねていく所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 江川ひかり	4. 巻 28
2. 論文標題 <<史料紹介>>「オスマン近代演劇ポスターを読み解く（第4回）アルメニア人が主宰するオスマン劇団 (Osmanlı Tiyatrosu)イスタンブル公演（1881年）」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『明大アジア史論集』	6. 最初と最後の頁 63-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥 美穂子	4. 巻 1041
2. 論文標題 近世イスタンブルにみるモノと祝祭：布地の役割を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 138 - 146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江川ひかり	4. 巻 26
2. 論文標題 <<史料紹介>>「オスマン近代演劇ポスターを読み解く（第3回）「オスマン幻想劇団(HayaIhane-i Osmani Kumpanyasi)の世紀末イスタンブル公演（1900年）」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『明大アジア史論集』	6. 最初と最後の頁 103-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江川ひかり	4. 巻 25
2. 論文標題 <<史料紹介>>「オスマン近代演劇ポスターを読み解く（第2回）「ムフスィン・エルトゥールルのブルサ公演」（1913年6月）」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『明大アジア史論集』	6. 最初と最後の頁 55-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江川ひかり	4. 巻 24
2. 論文標題 オスマン近代演劇ポスターを読み解く(第1回)「中国革命(Cin İhtilali)」(1912)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『明大アジア史論集』	6. 最初と最後の頁 45-62
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 奥 美穂子
2. 発表標題 近世イスタンブルにみるモノと祝祭：布地の役割を中心に
3. 学会等名 歴史学研究会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 奥 美穂子
2. 発表標題 オスマン朝写本史料の継承と保存 『インティザーミーの祝祭の書』を事例として
3. 学会等名 明治大学特定課題研究ユニットアジア史料学研究所
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 永田雄三	4. 発行年 2023年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 311
3. 書名 トルコの歴史(下)	

1. 著者名 Yuzo Nagata & Hikari Egawa	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Dergah	5. 総ページ数 209
3. 書名 Bir Kentin Toplumsal Tarihi Acisindan Osmanli'nin Son Doneminde Istanbul'da Tiyatro ve Cevresi	

1. 著者名 編集代表鈴木董、近藤二郎、赤堀雅幸 編集委員・執筆者永田雄三他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 775
3. 書名 中東・オリエント文化事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>オスマン朝演劇ポスター展 https://osmanlitiyatro.aa-ken.jp/ Welcome to the Ottoman Theatrical Posters https://osmanlitiyatro.aa-ken.jp/</p>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	永田 雄三 (Nagata Yuzo)	 (72622)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	奥 美穂子 (Oku Mihoko)	特任准教授 (32702)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
トルコ	研究者個人			